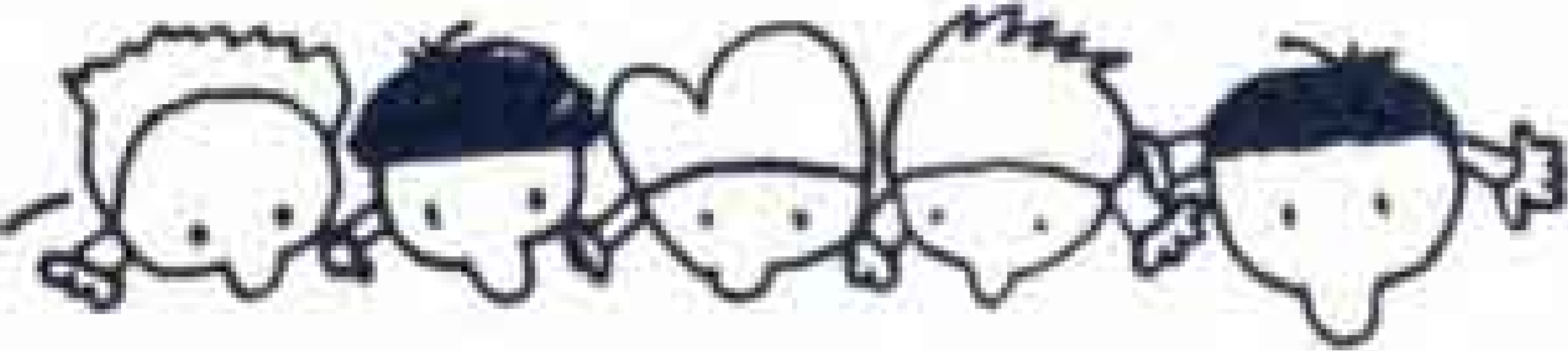


財政事情の公表



市は、市の財政事情を市民の皆さんに知っていただくため、毎年6月と12月の年2回、「富士市の財政事情」を公表しています。

今回は、昭和58年度決算の状況を中心に、昭和59年度予算とその執行状況をお知らせします。

58年度の決算状況は

まず初めに、昭和58年度決算についてお知らせします。

一般会計については、当初予算額367億2,000万円に対して、歳入合計額は399億6,897万円、歳出合計額は382億4,551万円でした。

特別会計については、当初予算額133億9,948万円に対して、歳入合計額146億2,553万円、歳出合計額141億5,331万円。

公営企業会計が当初予算額111億4,960万円に対して、歳入合計額97億2,234万円、歳出合計額115億1,476万円でした。

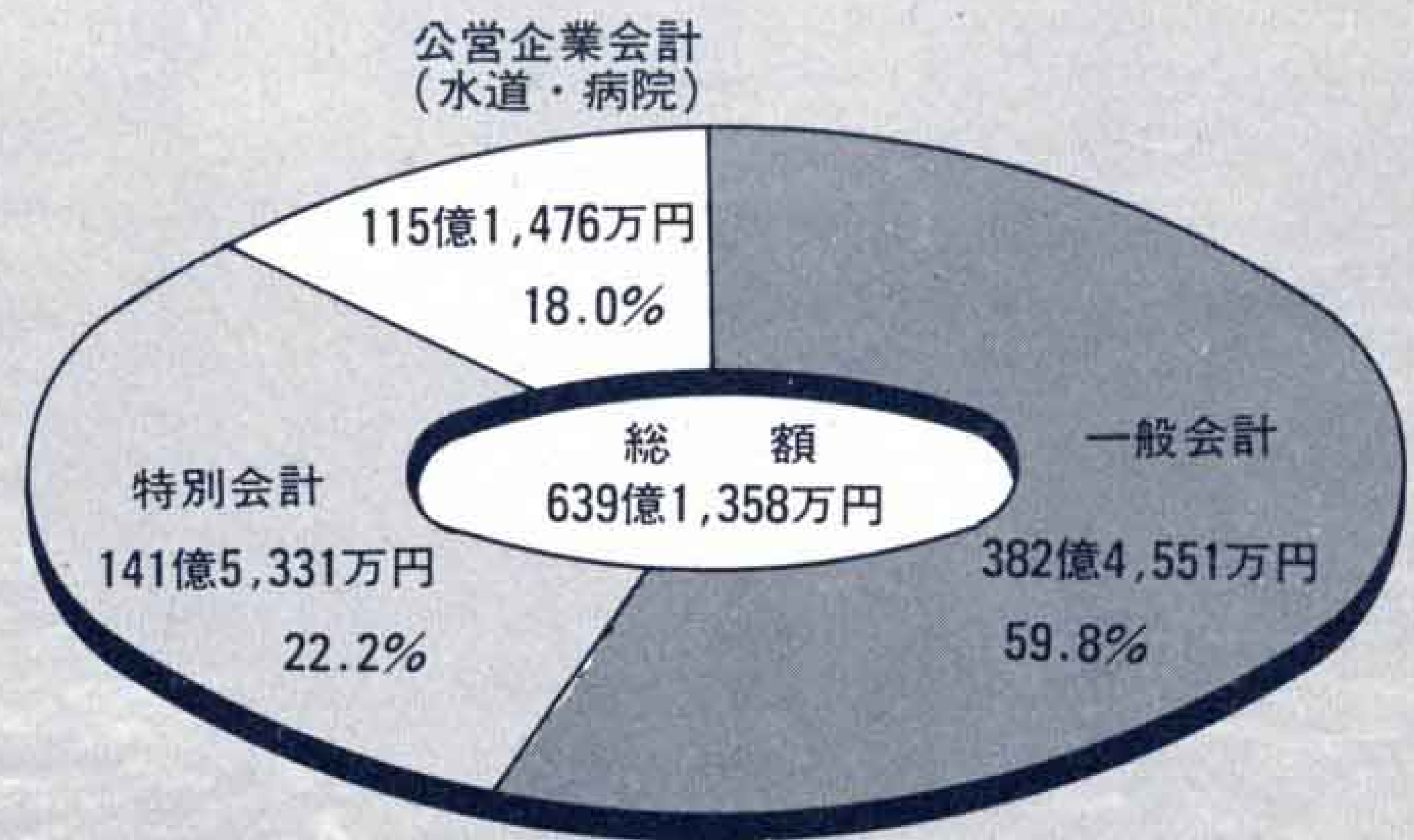
市税が61.1パーセント

次に、一般会計歳入の財源別状況をみると、自主財源となる市税が61.1%、諸収入8.3%、分担金及び負担金が3.4%を占めています。依存財源は国庫支出金7.9%、市債6.6%などです。

一方、歳出を性質別で見ると消費的経費として人件費が26.3%、扶助費6.4%、公債費8.0%、物件費8.5%などです。投資的経費としては、補助事業が6.7%、単独事業が18.6%を占めています。

豊かに住まい

昭和58年度 会計別決算状況(歳出)



昭和58年度 一般会計の決算状況

歳入

科目別	収入済額	構成比
総額	399億6,897万円	100%
市税	244億1,622万円	61.1
地方譲与税	4億5,056万円	1.1
分担金及び負担金	13億5,771万円	3.4
使用料及び手数料	6億2,833万円	1.6
国庫支出金	31億5,886万円	7.9
県支出金	11億2,045万円	2.8
繰越金	20億8,447万円	5.2
諸収入	33億1,659万円	8.3
市債	26億2,090万円	6.6
その他	8億1,488万円	2.0

歳出

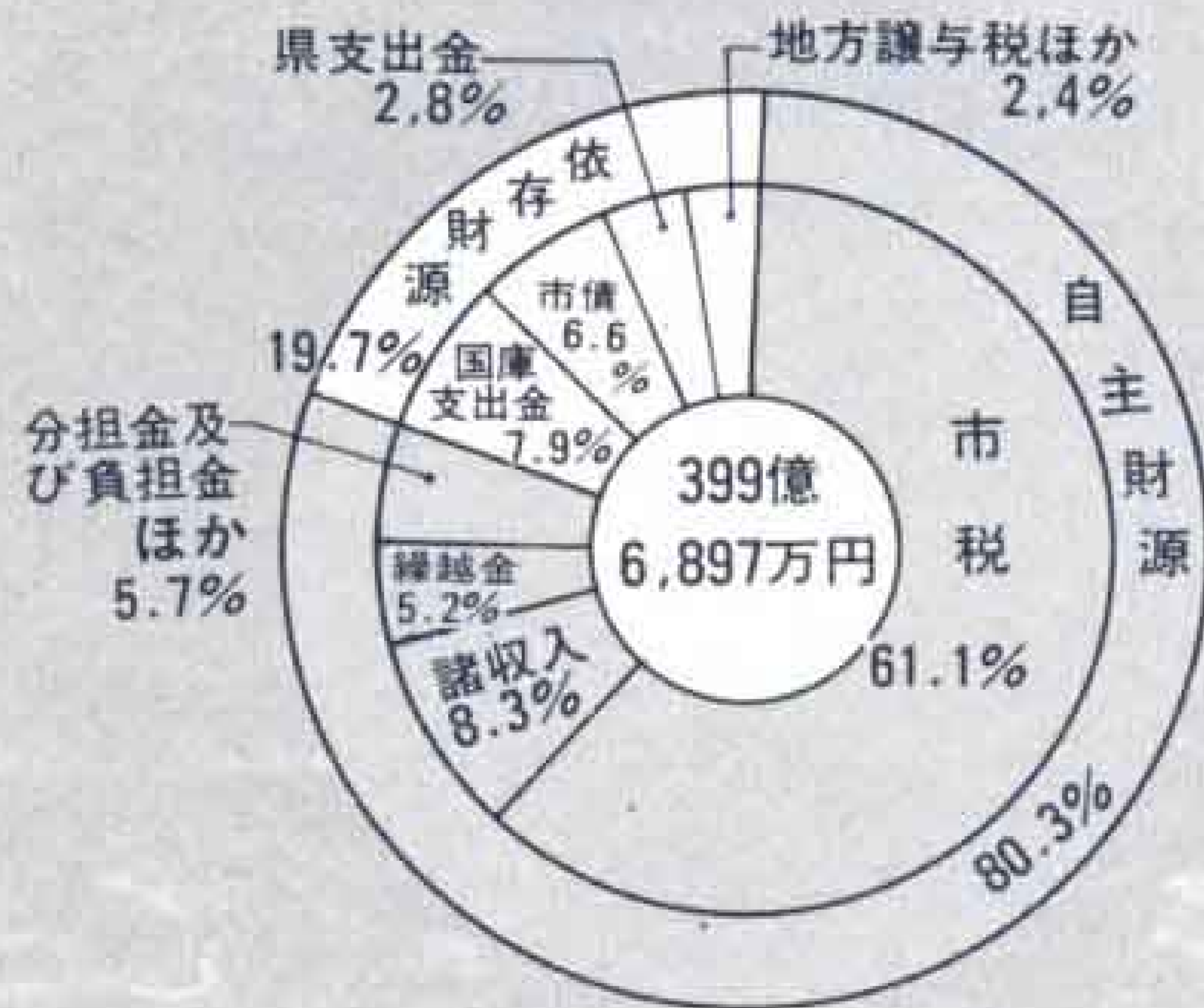
科目別	支出済額	構成比
総額	382億4,551万円	100%
議会費	3億9,222万円	1.0
総務費	43億2,213万円	11.3
民生費	52億5,664万円	13.8
衛生費	41億5,157万円	10.9
労働費	13億 497万円	3.4
農林水産業費	10億7,386万円	2.8
商工費	13億6,112万円	3.6
土木費	99億9,861万円	26.1
消防費	14億5,838万円	3.8
教育費	57億8,759万円	15.1
災害復旧費	6,783万円	0.2
公債費	30億6,883万円	8.0
諸支出金	176万円	—

おちふに 58年度一般会計 382億円を

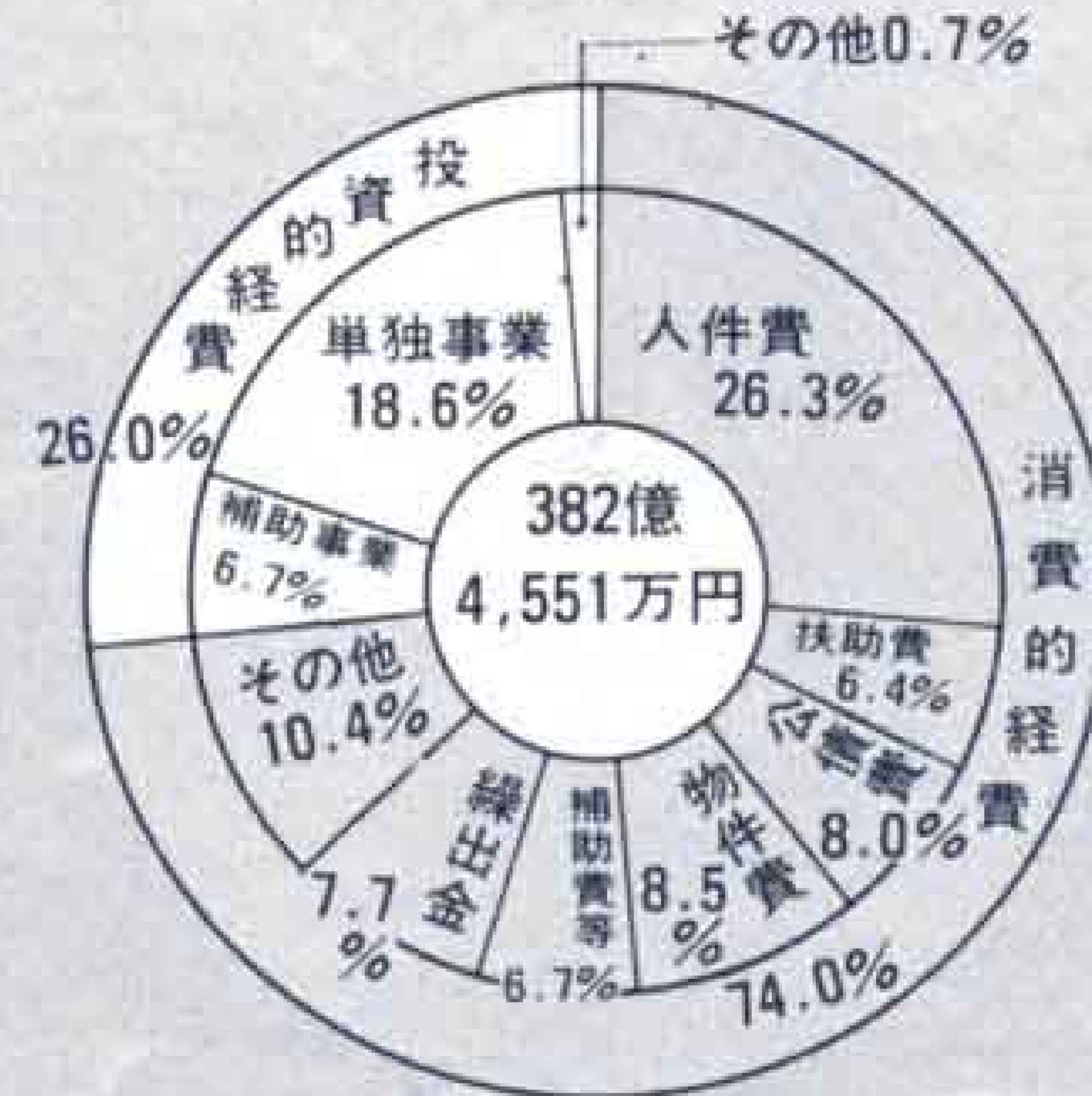
使いました

財源別 歳入

性質別 歳出



財政構造の状況



市民税の内訳

総額244億1,622万円

1人当たりの負担金

1人 11万4,432円

111億3,084万円(45.6%)	市民税	5万2,167円
85億3,109万円(34.9%)	固定資産税	3万9,983円
24億650万円(9.9%)	電気税	1万1,279円
8億4,128万円(3.4%)	市たばこ消費税	3,943円
12億7,004万円(5.2%)	都市計画税	5,952円
2億3,647万円(1.0%)	その他	1,108円

市債の状況

市の借金を市債といいます。道路や学校をつくるには、巨額な費用が必要となり、市税や補助金だけでは賅えません。そこで、国や銀行からお金を借ります。現在の市債をみると次のとおりです。

市債総額	485億9,944万円
一般会計債	237億5,116万円
大蔵省資金運用部	73億4,790万円
郵政省簡易保険局	74億2,559万円
公営企業金融公庫	35億9,938万円
市中銀行	27億3,212万円
その他	26億4,617万円
特別会計債	140億2,268万円
水道会計債	56億9,781万円
病院会計債	51億2,779万円

市有財産はこれだけです

有価証券	2,127万円	立木	22万2,918平方尺
土地	4,913万526平方尺	車両	251台
建物	52万2,472平方尺		59年9月30日現在

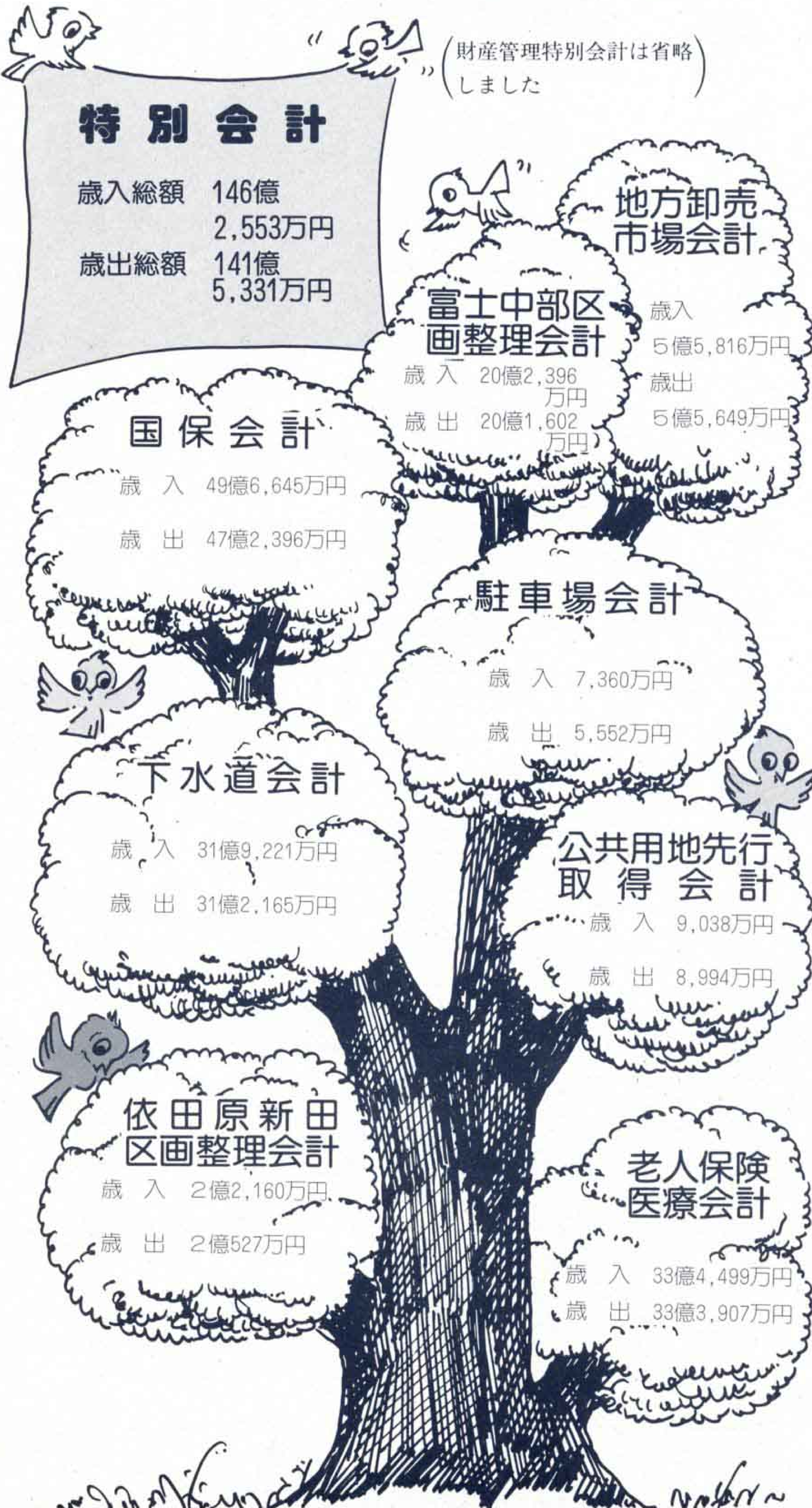
基金の現在高

33億9,611万円

(59年9月30日現在)

昭和58年度 特別会計 企業会計の決算状況

◎昭和58年度の特別会計・水道事業会計・病院事業会計の決算状況は次のとおりです。



水道事業



収入合計	21億3,358万円
営業収益	19億9,193万円
営業外費用	1億3,152万円
特別利益	1,013万円
支出合計	18億8,456万円
営業費用	14億5,796万円
営業外費用	3億8,727万円
特別損失	3,933万円
純利益	2億4,902万円
総配水量	3,359万 6,212立方メートル
1日平均	9万1,793立方メートル (昭和58年度)

病院事業

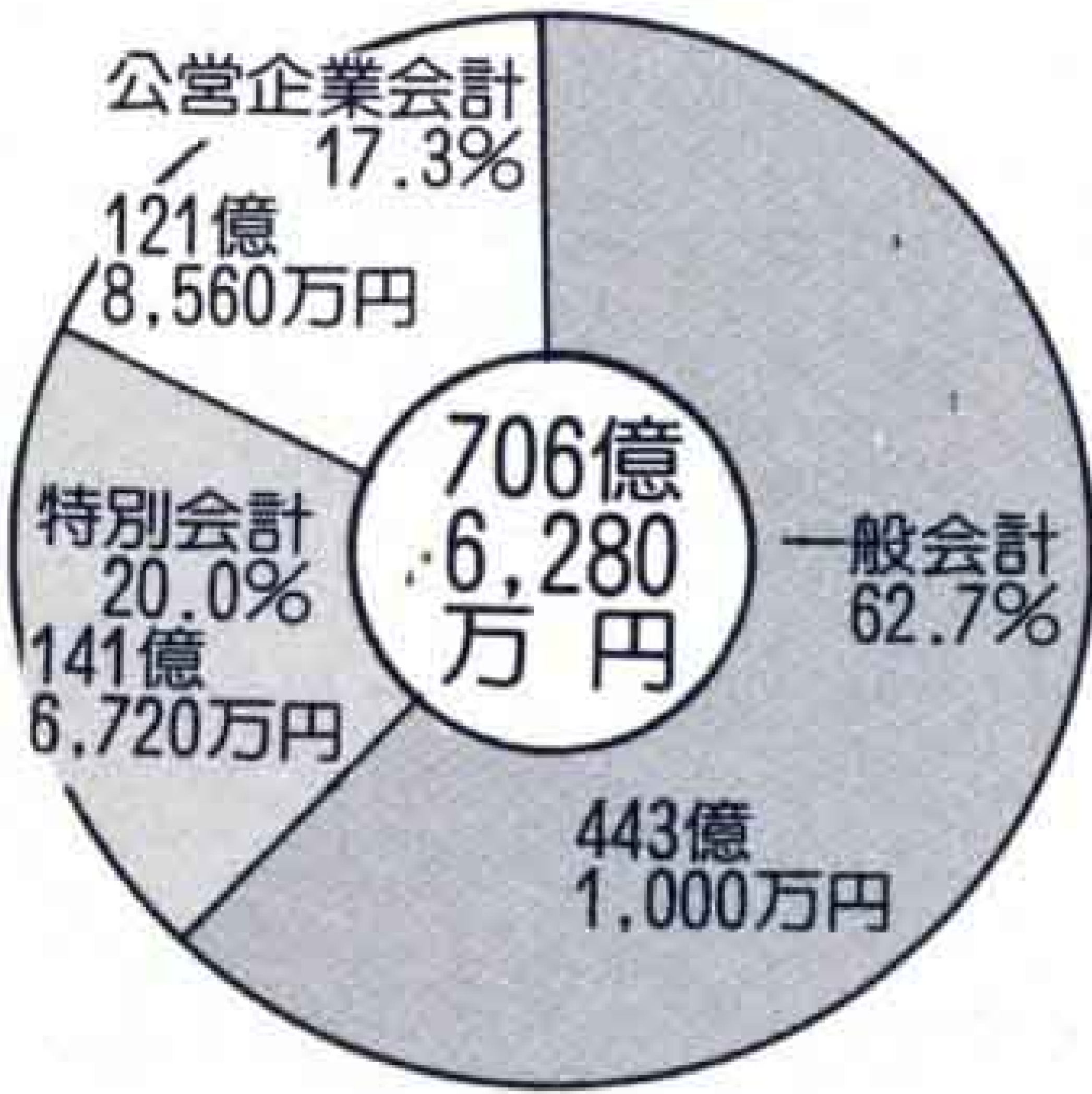


収入合計	37億7,749万円
医業収益	33億8,205万円
医業外収益	3億9,544万円
支出合計	37億1,947万円
医業費用	34億9,271万円
医業外費用	2億2,676万円
純利益	5,802万円
入院患者	9万9,817人
外来患者	21万9,585人
外来・1日平均	737人 (昭和58年度)

1、富士山のように 高く 教養を深め 視野のひろい市民となります

59年度予算の状況

一般会計予算は443億円



昭和59年度の予算額は、2回の追加補正を含め9月30日現在で、一般会計443億1,000万円、特別会計141億6,720万円、公営企業会計121億8,560万円、総額では706億6,280万円になります。

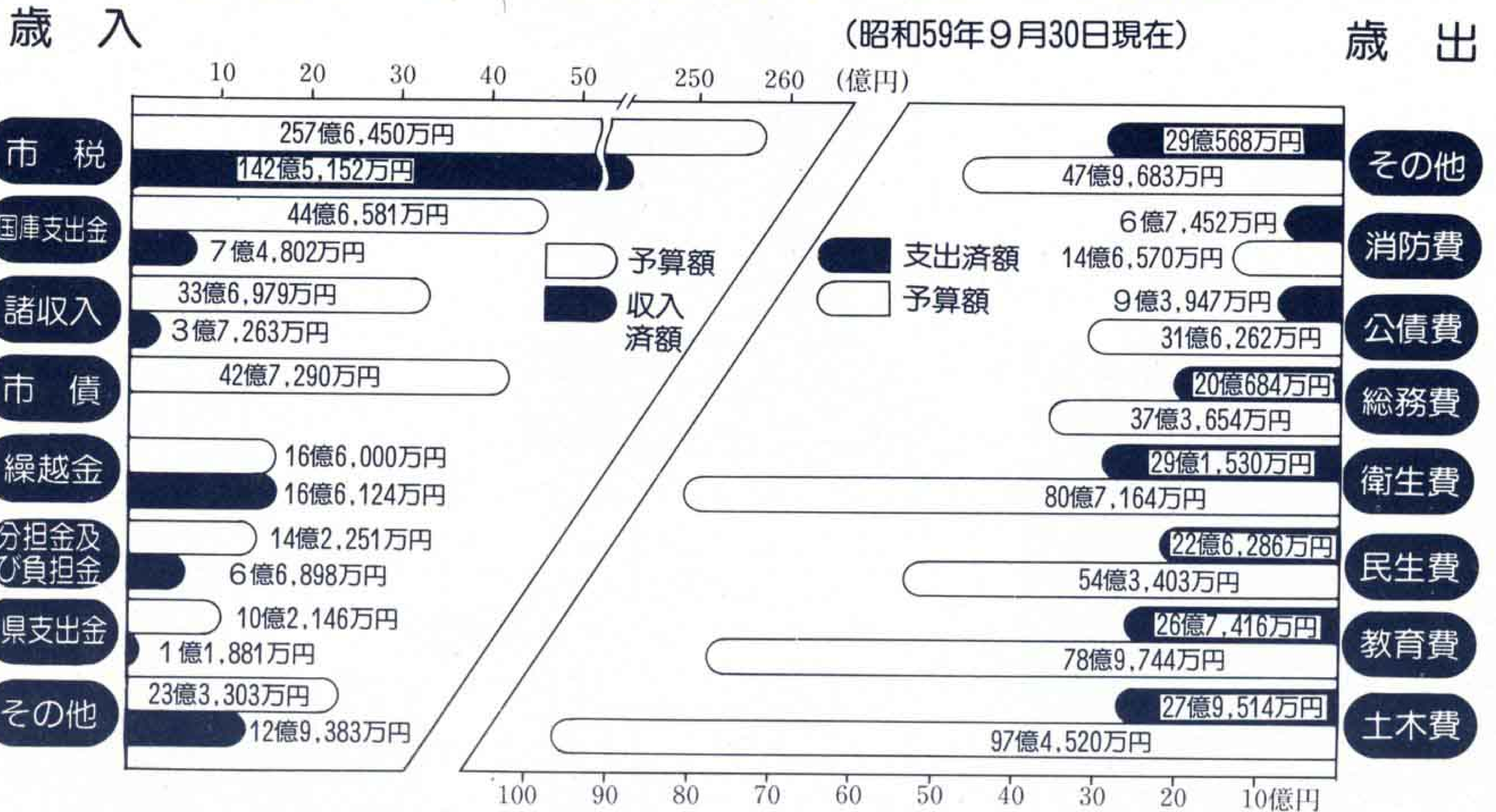
一般会計は、当初予算418億円に対して25億1,000万円が追加補正されました。歳入面では、自主財源の元

となる市税収入が、257億6,450万円で58.1%を占めています。

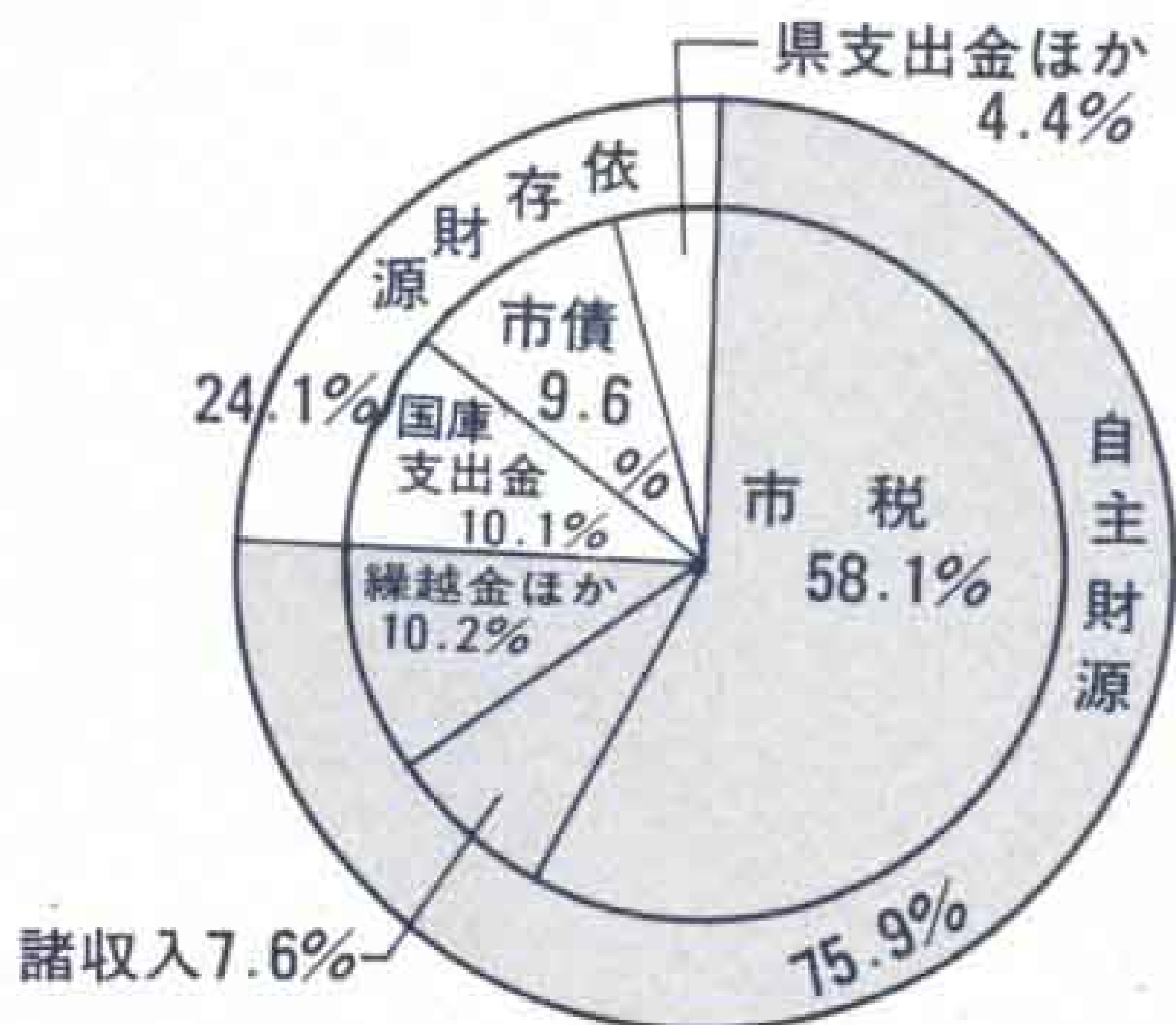
特別会計では、下水道事業会計や富士中部土地区画整理事業会計とあわせて8,200万円が編入されました。

公営企業会計の内訳は、水道会計が29億2,018万円、病院会計が1億4,205万円の追加補正を含めて92億6,542万円となります。

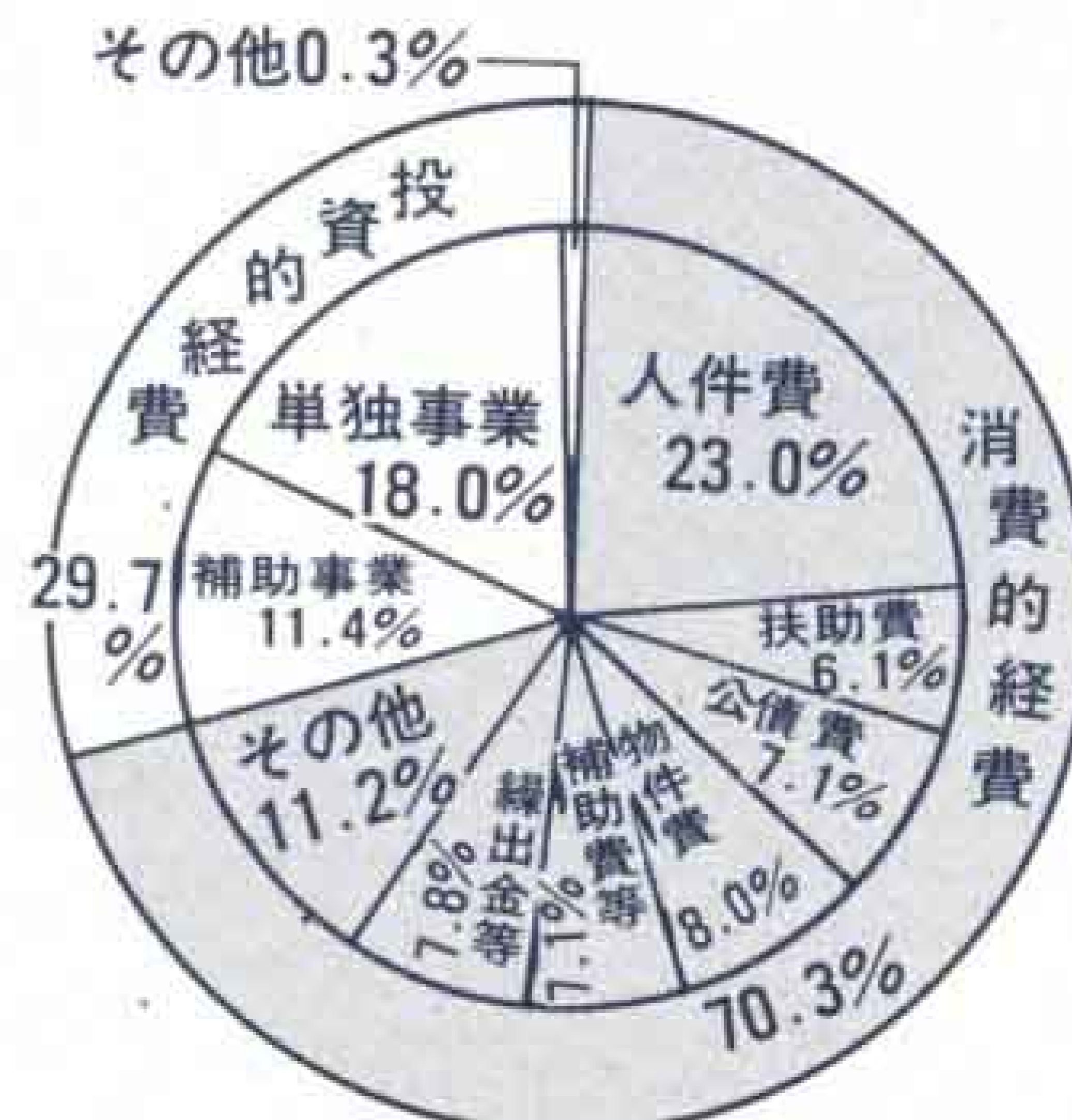
昭和59年度 一般会計の予算及び執行状況



歳入の財源別状況



財政構造の状況



歳出の性質別状況